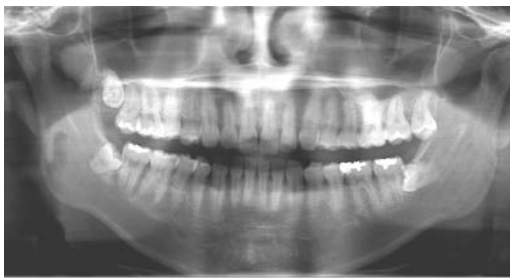


| CT撮影の重要性

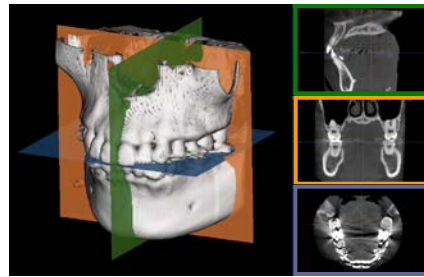
インプラント治療ではあごの骨がどういう形態になっているかを立体的に診ることが欠かせません。従来のレントゲンでは2次元の平面画像しか得られませんが、CTを用いると3次元の立体画像が得られ、平面画像ではわからなかった歯やあごの骨の詳細な立体構造や神経の位置などを精度高く把握することができます。そのため当院では手術前にCT撮影をお願いしています。

従来のパノラマレントゲン画像



2次元の平面画像のみ

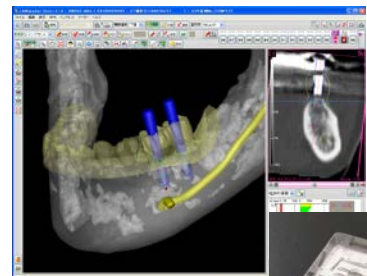
CT画像



立体で把握

| より安全・確実に ～インプラント治療支援システム「Landmark System™」の活用

さらに当院ではインプラント手術支援システムの日本トップシェアであるアイキャット社のLandmark System™を採用。撮影したCTデータをコンピューターで解析することにより、一歩進んだ安心・安全な手術を実現しています。



※Landmark System™とは？

大阪大学歯学部での研究成果を元に設立された株式会社アイキャット (iCAT) が開発した、診断から手術までをトータルにサポートする、最先端のインプラント治療支援システムです。

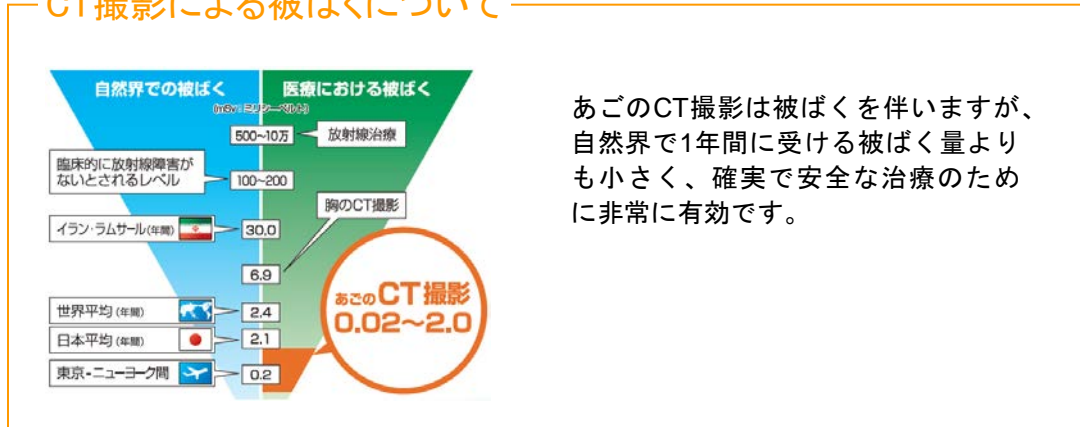
Landmark System™ を用いた最先端インプラント治療の流れ

Step.1 CT撮影



従来のレントゲン撮影では正確に把握することが難しかった、あごの骨の詳細な立体構造や神経の位置などを精度高く把握するために、CT撮影を行います。撮影は数秒間で痛みもありません。

CT撮影による被ばくについて



あごのCT撮影は被ばくを伴いますが、自然界で1年間に受ける被ばく量よりも小さく、確実に安全な治療のために非常に有効です。

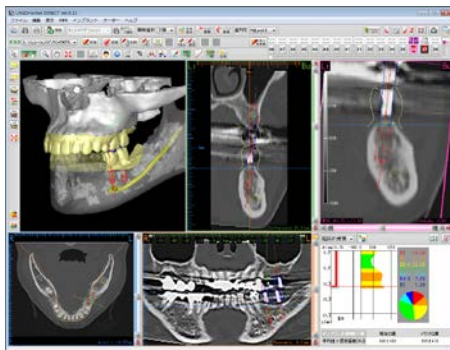
※全国歯科大学・歯学部附属病院診療放射線技師連絡協議会ホームページ、資源エネルギー庁ホームページ、原子力・エネルギー教育支援情報提供サイトより一部改変引用

Step.2 診断・治療計画



撮影したCTデータを専用のインプラントシミュレーションソフト『LANDmarker™』に取り込み、患者さま毎のあごの骨の硬さや形、神経の位置などを詳細に確認しながら、インプラントの最適な埋入位置を診断します。

診断後には『LANDmarker™』を用いて分かりやすく全体的なインプラントの治療計画をご説明しますので、十分にご納得いただいた上で治療を進めていくことが可能です。



LANDmarker™

Step.3 手術



Landmark Guide™

診断した結果を元に手術を行います。

ソフト上で診断した位置にインプラントを精度高く埋入できるようにサポートする手術支援器具『Landmark Guide™』を作製します。より安心・安全な手術を実現するとともに手術時間を短縮し、患者さまの負担も軽減します。

Step.1～3によって、リスクを軽減した上で最適な位置にインプラントを埋入でき、天然歯の代わりや義歯の土台として、インプラントが持つ機能を最大限引き出すことが可能になります。